平成２２年１月１日

第７０号

# 関東の森林から

国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/

富 士 山 （静岡県富士宮市）

（ 撮影者：静岡森林管理署　千葉　賢史 ）

## 年頭のごあいさつ

関東森林管理局長　小林　裕幸

## 私の視点

ＤＦ環境部会の活動について

ＤＦ環境部会リーダー　児玉　亨　氏

# 年頭のごあいさつ

## 関東森林管理局長　小林　裕幸

新年あけましておめでとうございます。

本年も管内の国有林が孫や子の世代からも喜ばれるような立派な森林となるよう、関東森林管理局の職員一同、力を合わせて頑張りたいと思います。

また、皆様に国有林の現状をお伝えするとともに国有林を有効に利用いただけるよう、本誌を始めとする広報にも力を入れていきたいと考えております。ご活用いただけると幸いです。

これらの点を含め森林・林業全般について、皆様のご支援をお願いするとともに、お気づきの点がありましたら、ご意見、ご叱責を遠慮なくいただきたいと考えて思います。

よろしくお願いします。

絵：静岡森林管理署　平田美紗子

## 国有林モニター会議を開催

関東森林管理局では、国有林の管理経営に皆様の声を反映させていくため、国有林モニター制度を設け、国有林モニター70名から意見や提言を伺っているところです。

この一環として、去る11月4日、群馬県安中市の国有林において、国有林モニター会議を開催し、各都県代表のモニター15名と局幹部が意見交換等を行いました。

当日は、移動中のバスにおいて、小林局長等から国有林の成り立ちや森林計画制度等について説明を行いました。現地では群馬森林管理署職員の説明により、間伐実施現場、治山ダム、オオタカモデル林を見学しながら質問や議論が行われました。最後に高崎市倉渕公民館において行った意見交換会では、各地域での森林・林業の話題や、森林計画などについて活発な意見交換がなされました。参加者からは「国有林のイメージが変わった。」「国有林の現場が見られて理解が深まった。」などの感想も寄せられ、貴重な時間とすることが出来ました。

妙義山で記念撮影

## 平成22年度国有林モニター募集

現在、平成22年度国有林モニターを募集しています。

モニターになっていただいた皆様には、国有林に関する情報誌や資料などを定期的に送付させていただくほか、モニター会議への出席等をお願いします。

**募集期限**

平成22年2月19日（金）必着

**必要事項**

必要事項を記入の上、郵便・FAX・E-mailいずれかによりご応募願います。

氏名（ふりがな）、性別、生年月日、年齢、住所（郵便眼号）、電話番号、職業、モニターを知ったきっかけ、応募の理由（１００字程度）

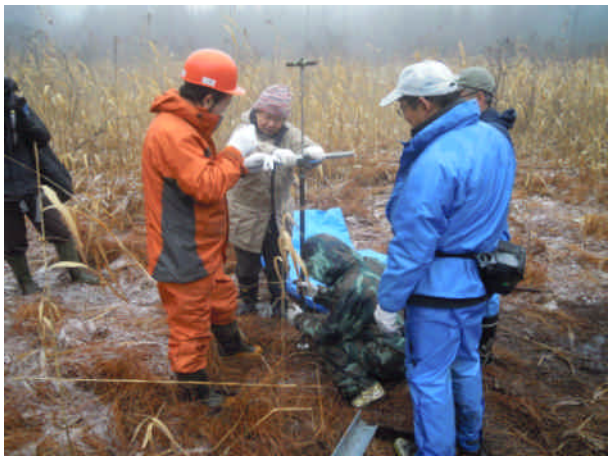
申込方法等の詳細については、関東森林管理局ホームページhttp://www.rinya.maff.go.jp/kanto/apply/publicsale/kikaku/monitor.html　をご覧下さい。

**その他お問い合わせ**

林野庁関東森林管理局
国有林モニター担当
TEL０２７-２１０-１１５０

# 赤谷プロジェクト近況報告

## 南ヶ谷湿地の堆積物調査



ボーリング調査の様子

12月初旬、赤谷プロジェクトエリアにおける唯一の湿地・南ヶ谷湿地で、専門家やサポーターを交えて堆積物調査を行いました。この湿地には独特の昆虫類や植物が存在しており、地元の方によると、昔は用水池としても利用された大きな池だったとのことですが、過去40年で水面が5分の1以下に減少し、急速に乾燥化が進んでいます。その原因を探るため調査を実施しました。

調査は、ボーリングによって堆積物を採取し、泥炭層に堆積した土砂や花粉分析等を行っており、南ヶ谷湿地の成立年代や乾燥化の原因、植生の変遷などを探っていきたいと考えています。

## 企画運営会議の開催

挨拶する地域協議会の岡村会長

12月7日(月)、みなかみ町中央公民館にて、平成21年度第1回赤谷プロジェクト企画運営会議が赤谷プロジェクト協働三者に加え、サポーター、県・みなかみ町関係者を交えて開催されました。

当日は、各ワーキンググループの活動状況の報告、関東森林管理局や利根沼田森林管理署から事業実行に関する提案・報告事項、赤谷プロジェクト地域協議会から旧猿ヶ京小学校の活用方法などについて説明があり、議論が進められました。

特に、赤谷プロジェクトと地域との繋がりをもっと密接にする取組を充実していくことが肝要であるという意見が多く出ました。赤谷プロジェクトの目標には「持続的な地域づくり」がありますので、今後一層取り組みを進めていきたいと考えています。

## 「赤谷の森を語る会」の開催

赤谷プロジェクトが発足して今年度で6年目となり、これまでの成果を次期地域管理経営計画等に反映させるため、「赤谷の森構想(仮称)」を作成することとしています。

作成に当たっては、地域住民が身の回りの森林について、どのような思いや希望を持っているか聴き取る必要があるため、12月13日(日)、猿ヶ京において、地域住民約20名参加の下、「赤谷の森を語る会」を開催しました。

昭和30年代までは、林業や炭焼きを通じて森林と地域は密接に結びついていましたが、現在は燃料革命などの情勢変化によって希薄となっている一方、環境教育やエコツーリズムを通じた森林と地域との結びつきを再構築する芽も育ちつつあることが感じられました。

今後は座談会等により、地域の方々から、さらにきめ細かい意見を伺いたいと考えています。

（赤谷森林環境保全ふれあいセンター）

地域と森林との結びつきについて話し合い

たくましく生きるイヌワシ親子（赤谷ノートより）

絵：静岡森林管理署　平田美紗子

# 私の視点

## ＤＦ環境部会の活動について

ＤＦ環境部会リーダー　児玉　亨

私の所属する社団法人ディレクトフォース（以下ＤＦ）は、大手企業約２８０社のシニアエグゼクティブＯＢを組織し、その経験、技術などを社会的に活用することを目的に２００２年東京に設立された法人です。

具体的には、大学で講義したり、企業への人材派遣やコンサルティング、あるいはベンチャー企業の支援を行うなど、現在７５０人が会員として活動しています。

環境時事セミナーの開催

更にまた、最近では地球温暖化問題の意識の高まりの中で、環境の保全、改善に会員自らが主体的に行動すべきではないかとして「ＤＦ環境部会」が立ち上がりました。

この環境部会には現在３００名の会員が参加して、持続可能な社会に必要な環境の保全、改善に関する各種啓蒙活動や自然再生支援活動を行っています。

例えば、環境省のチームマイナス６（ろく）運動に参画したり、有識者による環境時事セミナーや環境講座を開催することで、複雑で奥の深い環境についての真の問題点を理解する一方、中越森林管理署当間（あてま）の森、吾妻森林管理署管内の草津国有林で自然再生保全活動や皇居千鳥が淵公園の桜再生活動など自ら汗をかくことで、体で環境問題を感ずる活動も行っています。

汗をかいて体で感じて・・・

勿論私たちの活動は微々たるものにすぎません（せん）が、環境問題の解決にはこんな市井（しせい）の一市民の心のありようこそが大切という自覚で積極的にボランティア活動に参加しています。このことはＤＦ環境部会員が、エコピープルや環境カウンセラーなどの環境リーダーとなって改めて社会の一線で活動しようという意識改革にも繋がる考えです。

まだ緒に就いたばかりですから殆どは今後のことになりますが、すでに始めたことは継続しつつ以下のような活動ができたらと計画を練っているところです。

引き続きご支援をお願い申し上げます。

1．自然再生支援活動
　○森林再生ボランティア活動
　（「中越当間（あてま）の森」ボランティア継続）
　○里山再生支援活動
　○地域振興支援活動
2．環境教育活動
　○大学、市民講座での環境講座
　（物づくり大学での講座継続）
　○小、中学校での環境出前講座
3．各種ワークショップ活動
　○リサイクル推進活動
　○緑化事業推進活動
　○食の安全の研究活動

当間（あてま）のブナの森での活動

緑のボランティア活動（第1回草津）にて

# 森林官からのおたより

福島森林管理署　常葉森林事務所　森林官　内海　洋太

阿武隈山系最高峰　大滝根山

当森林事務所は福島県の中通りに位置し、国有林野面積は2,851㌶と福島署管内では2番目に小面積ですが、スギをはじめとする人工林が多く、積雪量が比較的少ないため、保育間伐等の造林事業が通年にわたり実施されています。

また、当事務所管内の周囲には阿武隈山系最高峰の大滝根山（1,192㍍）や富士山を望める最北限の山として知られる天王山（日山1,054㍍）等の山々に囲まれています。大滝根山の麓では良質の白御影石が産出されるほか、鍾乳洞（あぶくま洞など）も存在します。

ヒノキのほだ木から発生したナメコ

近年、人工林の保育間伐が多く実施されるようになりましたが、伐り捨てられた材が何かに使えないかと思っていたところ、ヒノキの間伐材を利用したナメコの栽培を実験してみたいという栽培農家があらわれました。ヒノキによるナメコ栽培を実験段階で進めている業者がここ数年増えてきていることは知っていました。ここ福島でも挑戦してみようという人がいることにうれしくなりました。そこで、造林事業を終えた国有林野から保育間伐により伐り捨てられたヒノキ材を100本程度、副産物扱いで販売しました。今秋になって、その栽培農家が「出ました！」と、事務所にナメコの生えた切り株を持ってきてくれました。

今後、さらにヒノキの間伐材利用が進むよう、地元の方々に呼びかけていきたいと思っています。

私がこの仕事についたのは、平成20年の春です。縁あって中途採用で福島に赴任することになりました。それまでは、庭師、住宅を手がける木材会社で現場監督、それから自然ガイドと多岐にわたり仕事をしてきました。仕事が変わっても常に向き合ってきたのは「木」でした。森林管理局に採用になり、向き合うのはやはり「木」です。森林官になり、広大な国有林野を管理するようになって、自分の考え方一つで、大事な国民の財産に損失を負わせかねないこともあるんだなと気づいたときは、責任の重さと自分に何ができるだろうという不安感で独り動揺することもありましたが、今では仕事にも少しづつ慣れてきました。

これからも諸先輩方々の意見を拝聴しながら、今までの職で得た経験を加味し、より良い国有林野事業を続けられるよう努力していきたいと思っております。

伐り捨てられるヒノキ間伐材

# 管内の百名山「富士山」

紅葉に染まる富士山（西臼塚駐車場から）

富士山（3,776㍍）は、我が国の最高峰であり、その単独峰の雄姿から我が国を代表する景勝あるいは霊峰として広く国民に親しまれています。

登山シーズンは7月から8月で年間約40万人が訪れ、富士宮登山口から頂上の剣ケ峰までは6時間前後で到達できます。近年ではその雄姿が諸外国からも脚光を浴び外国人観光客も急増しています。

一方、周辺地域への安定した水の供給源としての役割やヒノキ等を中心とした森林資源供給の場として地域社会や産業に多くの恵みを与えています。

しかしながら、平成8年9月の台風で国有林では広範囲（620㌶）に及ぶ甚大な森林被害が発生し、その復旧に向け、ボランティア団体、民間企業、静岡県等と協力して、森林（もり）づくり活動など各種活動を継続しています。

また、富士山の森林保全管理、環境美化に対する関心は、富士山の世界遺産登録を目指した240万人を超える署名運動や国会請願をはじめ、様々なボランティア活動を含む各般各種運動の活発化などから、今後ますます高まるものと考えています。

近年、ニホンジカによる立木の食害が拡大し、その対策に苦慮しておりますが、静岡森林管理署は、この豊かな大自然に囲まれた富士山国有林の諸機能を高度に発揮させることを目標に、地元の自治体やボランティア団体等と連携し、真に国民共有の財産として日本の名峰を守るため職員一丸となって頑張っています。

（静岡森林管理署広報広聴連絡官）

台風による被害の状況

ボランティアによる間伐作業

## 参加者募集

高尾山で冬芽の観察

数々の植物図鑑等の著者である菱山忠三郎氏を講師に招き、先生の解説を交えながら様々な樹木の冬芽を観察します。

実施日　平成22年2月3日(水)

実施場所　八王子市高尾山国有林（日影沢キャンプ場）

募集人員　50名　参加費1人千円（応募者多数の場合は抽選）

申込先　高尾森林センター

〒193-0844 八王子市高尾町2438ノ1

電話番号　（042）663-6689

申込方法

往復ハガキに参加希望者全員の住所・氏名・年齢・電話番号、返信名の宛名を記入のうえ、【林野庁高尾森林センター「冬芽係」】あてにご応募ください。

申込締切　平成22年1月14日（木）

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/pdf/fuyume.pdf

発行所　関東森林管理局
編集　総務課
■TEL（027）210-1158
FAX（027）210-1159